

糖尿病腎症のステージ	尿蛋白(アルブミン)	基準
第1期 腎症前期	正常	尿中アルブミン値: 30mg/日未満*
第2期 早期腎症期	微量 アルブミン尿	尿中アルブミン値: 30~299mg/日*
第3期 A 顕性腎症前期	持続性蛋白尿	腎機能ほぼ正常
第3期 B 顕性腎症後期		腎機能低下
第4期 腎不全期		腎機能著明低下
第5期 透析療法	透析療法中	

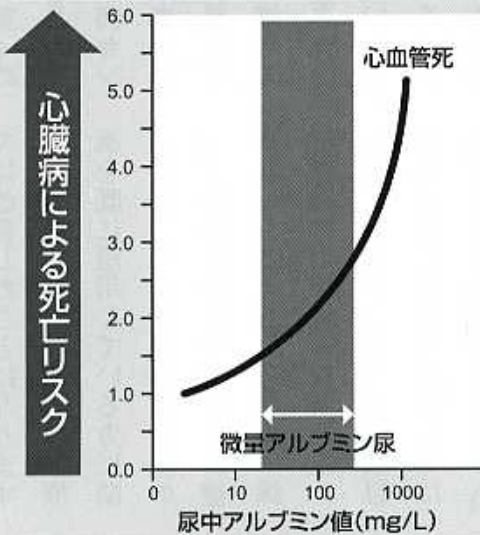
\*随時尿で測定した場合、単位はmg/gクレアチニン

腎機能悪化

尿中微量アルブミンは、腎臓のろ過機能に障害が生じ、尿中にアルブミンがわずかに漏れ出すようになった状態をいいます。

特に糖尿病やその疑いの初期(早期腎症期)にみられる尿の異常です。ある患者さんでは尿蛋白が出る前の早期の腎臓の悪化を示す指標となります。その意味で現在は糖尿病と診断され、蛋白尿陽性となる以前の早期糖尿病患者(糖尿病性腎症第1期または第2期)の

### 尿中微量アルブミンは心血管死のリスクファクター



**PREVEND研究**  
対象: オランダ、グローニンゲン市の住民(28~75歳)85,421名のうち40,548例  
追跡期間: 961日(中央値)

\*Hillege HL, et al: Circulation 106:1777-1782, 2002

できる検査の一つとして、尿を採るだけで簡単に測定できますので、継続的に検査を受けることをお勧めします。

図に示したように微量アルブミンの出現が心臓病の死亡のリスクを上昇させることが明らかとなつていきます。また加齢に伴い男女ともに微量アルブミン尿の

出現頻度は飛躍的に増加することも明らかになっています。そういった背景を踏まえて、日本高血圧学会のガイドラインには心血管病の危険因子として尿中微量アルブミンがとりあげられています。さらに微量アルブミン尿の段階で、糖尿病や高血圧症の治療を適切に行えば、正常化し、心血管病や腎不全を予防できる可能性が高くなります。これらのことから生活習慣病に伴う動脈硬化の進展を早期に予測

## 尿中微量アルブミン

# 早期発見 早期治療

予防医療センター その2  
オプション検査紹介

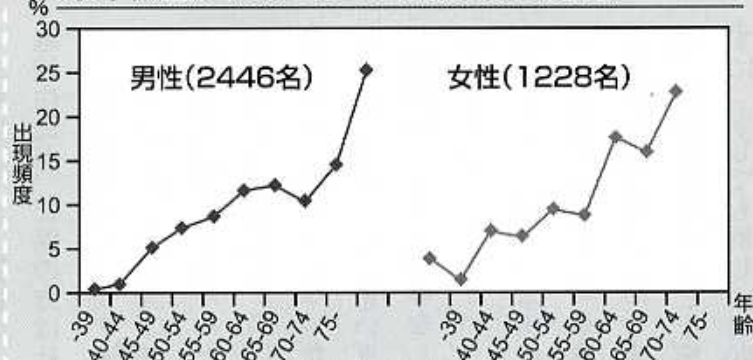
患者)に限り、3ヶ月に1回を限度に保険診療が認められています。しかしながら、最近の研究から尿中微量アルブミンは単に糖尿病の進行の過程で出現するのみならず、動脈硬化性疾患による腎臓を中心とした臓器障害の指標として有効であることがわかってきています。

### 心血管病の危険因子

\*JSH2004,高血圧ガイドラインより

- 高血圧
- 糖尿病
- 喫煙
- 脂質代謝異常(高コレステロール血症、低HDLコレステロール血症)
- 肥満(特に内臓肥満)
- 尿中微量アルブミン
- 高齢(男性60歳以上、女性65歳以上)
- 若年発症の心血管病の家歴

### 尿中微量アルブミンの年齢による変化



◆◆ 尿中アルブミン30 - 299mg/g-Cr \*三井記念病院総合健診センター資料一部改変

